

ちよつと違つて、園内は広く、レストランに行つたり温泉施設に行くにはそこその距離を歩く必要がある。まず、そのことを知つた父親は、「わしはここで待つてゐる。歩くのは足が痛いからかなん」と言い出しました。

80歳を超えていることもあり、最近歩くと足が辛いことは知つてはいたのですが、そこまで悪かつたのかと初めて分かりました。戦前生まれの人間なので「しんどい」「痛い」などの弱音を吐かない父親が、ここまで言うのはほんとに辛いんだと思ひ、受付けで車イスを借りることにしました。

最初は、「こんなもの乗るのなら帰る」と子供のようなこと言つてましたが、何とか説得して乗つてもらふと、足の辛さから解放され思ひの外に快適だつたのか、帰り際には車イスまで先に行き、腰を下ろし押しでもらうのを待つてゐるようなことでした。

お釈迦さまが向き合われた、人間が免れることのできない「生老病死」の現実。毎日両親の姿を見てゐる私でさえ、近頃は年を取つたなどと思ふことであり、一緒に暮らしてゐない私の姉や弟は尚のことであると思ひます。

両親が、身を持つて私に教えてくれている「人間は必ず老いる」ということ、そして「やがて命尽きる時が必ず来る」ということを自分の事として受け止めてゐる、こゝろがこゝろな人だと思ひます。

題材法話

浄土真宗のみ教え⑨ 「他力本願」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の14頁をお読み下さい。

の多くに仏教用語が使われ、その意味とは、残念なこと、に本来的な意味とは違いう意味で使われている。言葉もいくつかある。

○「他力本願」の誤用が「他

は親鸞聖人が「他力」といふ

の如きあり、他力とは阿弥陀

を救いたたい、という阿弥陀

まの願ひです。阿彌陀と

は阿彌陀さまが私たちを救

うはたのす。このことを意味す

願を単に「他力本願」と

解釈し、「一」と「他」と

んぼ餅し、「一」と「他」と

る「一」と「他」と



合い「といいた良くない意味

い、時に「他力本願」では

すが、誤用と「自力本願」と

言、葉自体があり得ないこと

に、また自然の恩恵に生かさ

れ、力も「他力本願」とは、

葉も「他力本願」とは、

つ、区別する必要がある

私達を救いた「他力本願」と

の、意味は「自力」と「他力」

○「自力」と「他力」

用、多い「他力」とは、

葉、多い「他力」とは、

力、多い「他力」とは、

曇鸞大師が「他力」とは、

教、受け入れる「他力」とは、

の、お使用の言葉と



み教えは、救われるはずの

本の願いを聞いて、往生浄

土の道をすべてお任せする

とい、これほどです。教え

の、論理では、解し、かた

の、直に受け入れることが

ま、せん。阿弥陀経には、

信の法「阿彌陀」とは、

い、その難しい理由が二つ

を、任せるだけ、救われる

と、いう教えが、易しく

すが、この「他力」とは、

が、信じて、信じて

福、信じて、信じて

思、信じて、信じて

れる、信じて、信じて

で、念仏以外に、修行



の善根を積み、仏と成るだけ

いの行為で、仏に成ろうとす

る、ことを「自力」と呼び

厳、戒められ、

し、そして、

に、任せる、

力、と、

○「他力」の奥義

曇鸞大師は、

の、深い意味を、

と、いう言葉で、

て、います。

「他力」とは、

る、阿弥陀さまが、

力、阿弥陀さまが、

陀、阿弥陀さまが、

救、阿弥陀さまが、

例、次号につづく